

主 題：イエスの本当の弟子
聖書箇所：ヨハネの福音書 8章31節

皆さんのお知り合いで今回の災害（東日本地震）に遭われた方はいらっしゃいませんか？私は友人や知人に電話、メールで何度か連絡を取りましたが、無事と分かったときは本当に嬉しいものです。「大丈夫かな？」と心配している中で「無事です」と連絡があったり、電話がなかなかつながらなくて「どうしているのだろう？」と心配して、やっとつながって元気な声を聞くことができると「ああ、無事だった！」と安心します。無事な知らせは本当にうれしいし、また、喜びです。これはクリスチャンに限らず、すべての人が経験する喜びです。皆さん、ここでクリスチャンであるあなたに質問したいのですが、クリスチャンであるあなたにとっての喜びは何でしょう？皆さんは何と答えられますか？様々なうれしさ、喜びがあると思いますが、だれもが「アーメン」と言う喜びがあります。それは「人が救われること」です。滅びに向かっている人、永遠の刑罰に向かっている人が信仰をもって救われるということほどうれしいことはありません。

では、そのように信仰を持たれた方があなたの隣にいて、皆さんはどのように声をかけられるのでしょうか？「本当に嬉しいことです。神さまに選ばれ導かれたこと、それゆえに、いっしょに信仰生活を歩んで行きましょう。」と、多分、皆さんもそのように声をかけ、喜びを伝えようとするでしょう。ここで私たちが考えてみたいことは、イエスなら何と言われるかということです。「私は信仰を持ちました。信じました。」と言う人にイエスは何と言われるのでしょうか？確かに、イエスの周りには「信じた」という人が大勢いました。ヨハネの福音書8：30にこのように記されています。「イエスがこれらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた。」、イエスの周りには大勢いたことが分かります。いったいこれはどのような状況であったのかを簡単に見ましょう。信じた人たちはどのような経緯でそうなったのでしょうか？

ヨハネ8：30の背景

時期：この時期は、ユダヤ人の三大祭りの一つである「仮庵の祭り」のときであったことが考えられます。7章を見るとそのことが記されています。2節「さて、仮庵の祭りというユダヤ人の祝いが近づいていた。」、10節「しかし、兄弟たちが祭りに上ったとき、イエスご自身も、公にではなく、いわば内密に上って行かれた。」。イエスはただワイワイと祭りを祝い楽しむために行かれたのでしょうか？また、神を礼拝するために行かれたのでしょうか？イエスは集まっている人々にメッセージを語られたのです。7章の37-38節をご覧ください。「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。：38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」、祭りの終わりの日で多くの人が集まっていたことでしょう。その中でイエスが言われたことは「わたしを信じる者は、生ける水の川が流れ出るようになります。」、「永遠のいのちが与えられます。」でした。

イエスのメッセージ：また、イエスはこのように述べておられます。8章12節「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」。「世の光」とあります。旧約聖書を見ると、「光」は神を表わすものとして使われています。つまり、イエスご自身です。イエスが神であるということです。そして、ここでも「わたしに従う者は、…永遠のいのちを持つ」と言われました。7章では「水」、8章では「光」がキーワードになっています。この「仮庵の祭り」で「水」と「光」が象徴的に扱われているのです。メッセージの中に「水」と「光」を入れることによって、イエスは集まっている人たちに分かり易く語ろうとされたと考えられます。

群衆の反応：イエスが語られました。では、聞いている群衆はどのような反応だったのでしょうか？7-8章を読んでくださればいいのですが、ある人たちは反発しますが、ある人たちは信じようという思いに導かれます。また、ある人たちはイエスのことをもっと知りたい、語りたいけれど、指導者であるパリサイ人を気にして口をつぐんでしまうという、そのようなことがあったのです。

また、「信じた」というその直前でも、人々はこのように言っています。8：25「そこで、彼らはイエスに言った。「あなたはだれですか。」…」と。しかし、イエスは続けて語られました。そして、30節「イエスがこれらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた。」という状況に至るのです。イエスは人々に一生懸命語り続けておられたのです。そして、最後に大勢の人たちが「イエスを信じた」と記

されているのです。皆さんがもしこの場にいたなら、どのような気持ちをもたれるでしょう？祭りの間中、イエスは語り続けておられたのです。そして、最後の日になって「信じる！」と言う人が起こされるかどうか？というとき、「多くの者がイエスを信じた。」わけです。もし、私がここにいたなら、「ああ、本当によかった、うれしい！私も心からうれしい！」と、信じた人に声をかけるでしょう。

イエスの答え：では、イエスはどのように声をかけられたのでしょうか？「良かったですね。信仰生活をしっかり歩んで行きましょう！」と言われたのでしょうか？イエスが「信じた」と言うユダヤ人たちに言われたこと、それが31節に記されていることばです。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」。イエスは喜んでこのように言われたのでしょうか？むしろ、これは冷たい印象をもってしまうようなことばではないかと思います。イエスは信じた人たちに、なぜ、このようなことを言われたのでしょうか？それは、彼らが本当の信仰者、本当の弟子になってくれることを望んだからです。

☆イエスの本当の弟子とは？

これらのことから、今日は8章31節の箇所から「イエスの本当の弟子」について考えて見たいと思います。それによって、皆さんに考えていただきたいことは、皆さんがイエスの本当の弟子であるかどうか、また、弟子として歩んでいるかどうかということです。そのことを吟味して、それゆえに、イエスの弟子として歩んで行く決心の機会としてくださることを願います。

皆さんは「イエスの本当の弟子」と言われてどのような人を思い浮かべますか？また、「あなたはイエスのほんとうの弟子ですか？」と問われて、「はい、そうです。」と答えることができますか？そして、「『はい！』と言えるその根拠、理由は何ですか？」と聞かれたなら、どのように答えますか？イエスの本当の弟子とはどのような人でしょう？そのことを見て行きましょう。

31節「そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。…」、「そこで」とは、前の事柄を受けて話すのです。30節の「多くの者がイエスを信じた。」ということを受けて、信じたと言う人たちに31節のことばを語られたのです。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」と。これは非常に厳しく、また、非常に挑戦的なことばであると思えるかも知れません。でも、先ほど見たように、この人たちはすぐに「信じる」と言った人たちではありません。訳も分からずに信じた人ではないのです。イエスのことばを何度も繰り返して聞いて、その上でもなお、右往左往しながらようやく信じる状況にたどり着いた人たちです。そのような人たちに対してイエスは、少し言い方を変えると「あなたがたは信じたのですね。それなら言いますが、信じた者、本当のわたしの弟子とは、わたしのことばにとどまる者ですよ。あなたはどうですか？」と、そのように言われたのではないかと思います。

そして、この後、彼らとイエスとの論争が始まります。8章の最後を見ると、そこにいた人たちはイエスを石打ちにしようというような状況になってしまうのです。（8：59「すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。」）。つまり、彼らは本当の信仰者、弟子ではなかったのです。確かに、「信じた」と言った人たちでしたが、実際はそうではなかったのです。確かに、31節のことばを言うことができるのは、人の心の中のすべて知っておられるイエスであるからと言えるでしょう。なぜ、イエスはこのようなことを言われたのか？先ほども言ったとおり、本当の信仰者、ご自分の本当の弟子を作りたかったからです。

イエスには以前にもこのようなことがあったことを、同じヨハネの福音書の中に見ることができます。2：23－24「イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行なわれたしるしを見て、御名を信じた。：24 しかし、イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、」と、すべての人がどのような思いをもって信じたのかということを知っておられたのですが、ここでは「しるしを見て」とあります。びっくりするような驚くようなしるしを見て、単に、表面的なことだけを見て信じた人たちに対して「イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。」のです。信じた人たちがどのような人かを知っていたからです。

また、6章には、五千人の給食の後、このようなことが記されています。6：13－15「彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。：14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に來られるはずの預言者だ。」と言った。：15 そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。」、人々はイエスのことを預言者だと言い、また、イエスを自分たちの王にしようとしたのです。確かに、イエスはこの世に救い主として王として來られました。でも、イエスはこの人たちに「わたしはあなたがたの王です」と言われたものではありません。つまり、彼らの本当の心の思い、自分たちに都合の良い王としてイエスを担ぎ上げようとしていたこと

を知っておられたゆえに、イエスは退かれたと、そのような状況を見ることが出来るのです。

イエスが求めておられたものは、ただ口で「信じます」と言う者、表面的な信仰生活をしている者ではなく、本当の弟子、本当の信仰者です。では、本当の信仰者とはどのような人でしょう？

A. みことばにとどまる者

もう一度、8：31のみことばを見ましょう。「そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」、みことばは明確に教えています。「わたしのことばにとどまるなら、」とあります。「わたしのことばにとどまる人が本当の弟子だ」とイエスは言われているのです。「わたしのことばに」とは「わたしのことばの中で、わたしのことばによって」と言うことが出来ることばです。そして、また「とどまる」とは「住みつく、住み続ける、生存する」という意味をもったことばです。つまり、「わたしのことばの中で、わたしのことばによってとどまる」、「ことばの中に住むなら、わたしのことばによって生存するなら、」と、そのように言うことができます。

また、「ことば」ということを考えたとき、ヨハネの福音書は「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」（1：1）と始まります。この「ことば」はまさしく、イエス・キリストであるということをヨハネは最初に記したのです。「わたしのことば」とは、言い換えるならイエスご自身であると言うことが出来ます。ですから、イエスの中に住むなら、イエスによって生きるなら、その人は本当の弟子であるということです。また、今の時代に置き換えるなら、私たちは聖書によってイエスを知るわけです。それなら、私たちが聖書の中に住み、聖書によって生存するなら、イエスの本当の弟子であると言うことができるのです。

1. みことばにとどまるとは？

では、聖書の中に住む、聖書によって生存しているとはどうことでしょうか？イエスの中に住んでいる、イエスによって生存しているとはどういうことでしょうか？たとえば、イエスを知っている、イエスを認めている、それゆえに、私はイエスを信じますと言う人がいるなら、その人は本当の弟子でしょうか？また、その人はみことばにとどまっている人でしょうか？「私は聖書を持っています。聖書を認めています。信じています。」と言う人もみことばにとどまっている人でしょうか？その人はイエスの本当の弟子でしょうか？これらのことは、表面的な状態やことばだけとも考えられます。イエスを知っているということ考えたとき、確かに、歴史の教科書でイエス・キリストについて知りました、だから、知っていますと言うかもしれません。でも、歴史であって実際に見た訳ではありません。「教科書に載っているからイエス・キリストがいたことを認めます。それゆえに、イエスが語ったことを信じます。」と言うなら、その人はみことばにとどまっていると言えるでしょうか？私たちは表面的なことだけで、そのように認めて信じますと言える訳です。しかし、イエスはそのようにして信じる人になって欲しかったのではありません。イエスが望んでおられたのは本当の弟子です。みことばにとどまる人です。

みことばにとどまるとはどういうことでしょうか？ヨハネはヨハネの手紙の中でこのように述べています。Ⅰヨハネ2：24「あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。」、みことばとはイエス・キリストのことです。ですから、みことばにとどまっているなら、あなたがたのうちには父なる神、また、子なるイエス・キリストがいるのです。

2. みことばにとどまることについて

1) みことばに耳を傾ける

みことばを聞くことです。先ほどのヨハネの手紙にも記されていました。「初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどまらせなさい。」と。しっかりと聞く、そして、それを知ってとどまらせるのです。パウロはこのように述べています。ローマ10：17「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」、つまり、聞いて知る必要があるのです。しっかりとみことばにとどまるためには、まず、私たちはみことばを聞いて知ることが必要なのです。聖書を持っているだけで聖書を知ることが出来ますか？「確かに、これは神のみことばであると信じています。」と言っても、それだけで聖書に語られていることを知ることが出来るのでしょうか？できません。私たちは耳を傾けてみことばを聞くこと、一人ひとりが聖書のみことばに向き合い聖書を読むことによってそのみことばを知ることができるのです。

皆さんはみことばをしっかりと知るためにみことばを開いておられますか？また、集会に参加してみことばを聞いておられますか？でも、ただみことばに耳を傾けるだけでいいのでしょうか？みことばを読むだけでいいのでしょうか？私自身、以前サラリーマンをしていたとき、毎朝、出社する前に聖書を

読む時間を取るようになっていましたが、段取り通りには行かない日もあります。時間がなくて、15分のはずが10分、5分になって「今日はこれだけで…」とあわただしく出社し、「まあ、一応読んだことだし…」と満足しても、それでみことばにとどまることが出来るのでしょうか？今日という日をみことばによって歩んで行くことができるのでしょうか？これでは、みことばにとどまることができません。みことばを聞くだけ、みことばを読むだけでは私たちの頭の中にそのみことばはとどまらないのです。

2) みことばから絶えず学ぶ

みことばを読んで聞くことだけでなく、そこから一人ひとりがしっかり学ぶことです。パウロは自分の信仰の息子であるテモテにこのように述べています。Ⅱテモテ3：14－15「けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。」、つまり、ただ聞くだけでなく、学んで確信したことにとどまるのです。聖書に親しみ、聖書から知恵が与えられ、そして、救いを受けることができますと言います。いろいろな人から教えるを聞くこともあるでしょう。でも、テモテは聖書を学んだと言うのです。

聖書を学ぶ方法について、皆さんは聖書を読むときどのようなことを考えながら読めますか？「神さま、どうぞ教えてください」と言いながらもさっと読んで終わっておられませんか？それでみことばをとどめることができますか？頭の中にしっかりととどめることができますか？難しいことです。私たちはみことばを学びながら読む必要があるのです。このみことばにはどのようなことが教えられているのか、それを読み取る必要があります。ときにはすごい約束があります。神からクリスチャンに与えられた驚くような約束、また、私たちが歩むべき道、神が望んでおられること、神の私たちへの命令などが記されています。また、神はどのような方かというその真理が記されています。

だから、私たちがみことばを読むとき、聞くとき、その中にどのような約束が記されているのか、また、どのような命令があるのか、神はどのようなことを望んでおられるのか、また、神に対するどのような真理があるのかをしっかりと覚えることです。そうするとき、私たちは真理を、約束、命令を発見します。「ああ…聖書はこのようなことを私に教えてくれている。」と学ぶことが出来るのです。無意識のうちに読んでいる場合でも「これが約束だ、命令だ、これは神の真理だ」と発見することができます。でも、無意識で読んだりあわただしく読むと、後で振り返ってみると、頭に何も残っていないことが多々あります。しっかりと考えて学びながら読むなら、しっかりととどまることが出来るのです。

また、聖書を読むときに鉛筆をもって教えられたことを書き出すことも、とどまるために有効です。みことばを覚えることができます。読み終わったあとにしっかりと思い返すことができます。それによって聖書を読んで、聞いて、聖書が何を教えてくれているのかを学ぶことができます。

でも、みことばを聞くこと、学ぶこと、これだけでは十分ではありません。

3) みことばを深く考える

学んだこと、教えられたことを深く考えることです。それがどういうことなのか？自分はそれに対して何ができるのかということを考えるのです。聖書は今のこの時代も国も違うときに書かれた訳です。ですから、今の私たちに直接教えているのかどうかを考えなければいけません。どのように私たちの日常生活に適用するのかを考える必要があります。

一つの例を見ましょう。新約聖書の中の明確な命令からそのことを考えてみましょう。

エペソ5：22「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」、これは妻に対する命令です。「自分の夫に従いなさい。」と単純明快な教えです。でも、ここで考えるべきことは、「従います。」と口で言うのは簡単ですが、日々の生活でどのような態度で従うのかということです。皆さんの状況はそれぞれ違って、そのことを実際的に考えなければいけません。

エペソ5：25「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。」、これは夫に言われています。「自分の妻を愛しなさい。」と。これも口で言うのは簡単ですが、実際にその愛をどのように妻に表わしますか？一人ひとりが考える必要があります。

エペソ6：1「子どもたちよ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことだからです。」、これは子どもたちに言われています。「両親に従いなさい。」という単純、明快な命令です。でも、どのように従うのでしょうか？私自身、実家に帰ったとき、両親のことばに余り気の乗らない返事を返してしまうことがあります。親はいろいろなことを聞いてくれているのですが、「ああ…」とか「まあまあ…」で終わらせてしまうのです。これでは「従う」ことにはなりませんから、自分の態度を変えなければいけないという思いが与えられます。単純な命令であっても実践は容易くないのです。夫に従うこと、妻を愛すること、私たちはそれをどのようにするのかを考えなければいけません。

エペソ 6 : 4 「父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」「父たちよ。」とありますが、これは父親だけでなく母親にも言えることです。「おこらせてはいけません。」と言っても、何でも言う通りに聞いてあげることではありません。「主の教育と訓戒によって育てなさい。」とあります。正しいことと悪いことをはっきり示して育てなさいということです。でも、「おこらせてはいけません。」と教えます。なぜ、おこっているのかを考えなければいけません。それぞれの状況は違いますから、一人ひとりがどのように対処するのかを考えなければいけないのです。

みことばは「このようにしなさい」と教えますが、それをどのように自分に適用して行くのかは自分自身で考える必要があるのです。そうすることによって、自分のうちにみことばがしっかりととどまるのです。学んで、それを実践して行くのです。実践するからみことばがうちにとどまると言えるのです。知識をどれ程もっていてもみことばにとどまっていることにはならないのです。聖書がこのように教えている、このように命令している、でも、それらを自分のものとして使おうとしないなら、それはとどまっていることにはならないのです。みことばとともにあって、みことばによって生かされていることにはならないのです。

まず、聞いて調べる、そして、深く学んでどうすればいいのかを考える。もう一つ必要なことがあります。

4) みことばを実行する

つまり、聞いて学んで考えたことを実践するときに、その人は本当にみことばにとどまっていると言うことができます。Ⅰヨハネ 3 : 17-18 を見てください。「世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。:18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」とあります。神の愛がとどまっていない人はどのような人でしょう？その人はことばや口先だけの人だと言います。そうであってははいけません。行ないによって愛を実践するのです。どれ程「愛します」と言っても行ないがないなら、それはとどまっていないのです。そうであってはいけない、つまり、実践が必要なのです。実践するときに皆さんはみことばにとどまっている者であり、また、そうすることによってみことばにとどまることができるのです。

イエスの周りにいた人たち、「信じた」と言うその人たちはどのような人たちだったのでしょうか？このようにみことばにとどまっていた人だったのでしょうか？そうではありませんでした。だから、イエスは「あなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」と言われたのです。皆さん、「私は本当にイエスの弟子です。」と言えますか？また、本当の弟子として歩んでおられますか？つまり、みことばにとどまっているか、みことばにとどまって歩んでいるかどうか？ことばだけではなく実践が伴っているかどうか？です。もし、「はい」と言えるなら、それが本当のイエスの弟子です。

最後に、みことばにとどまる者にすばらしい約束が記されている箇所があります。ヨハネ 15 : 7 に「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」と、こんなにすごい約束があるのです。ここで勘違いしないでほしいのですが、自分勝手なものを求めても決して与えられることはありません。皆さん自身がみことばにとどまっているのなら「求めなさい」、その時に与えられると言っているのです。みことばにとどまっている者、イエスがとどまってくれている者はどのようなことを考え、また、行なおうとするでしょう？それはイエスが考えイエスが行なわれたことです。みことばにとどまっている者であるなら「求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」という約束なのです。つまり、神があなたに与えようとしているものを求める者であり、そして、それが与えられるとイエスが約束してくださっているのです。

みことばにとどまる者に対して神はこのようにすばらしい約束を与えてくださっています。皆さんは本当の弟子として歩んでおられますか？ぜひ、弟子として、今週それぞれの置かれたところで歩んでくださるよう願います。